

令和6年度 第1回酒田市ボランティア・公益活動推進委員会 会議録

日 時 | 令和6年5月27日(月) 14:00~14:40

場 所 | 酒田市中町交流ひろば

1 開 会

2 あいさつ ボランティア・公益活動センター長

3 委員紹介・会長および副会長の選出

4 協議事項

令和5年度事業の報告および令和6年度事業の計画(案)について

(質問・意見等)

■令和5年度事業報告

委 員 | 夏のボランティア体験について。令和4年度までは中学生以上を対象としていたが、令和5年度からは小学生も対象となり、私の所属団体でも3日間受入れした。これまで中学生の参加はあまりなく、高校生や看護学生から参加していただいている。今回初めて小学生3人の受入れということで緊張したが、皆さん一生懸命小さい子たちと触れ合っており、小学生まで幅を広げられたのはとてもよかったと思う。

委 員 | 小学生は何年生から対象としているのか。

事務局 | 小学5年生から対象としている。

■令和6年度事業計画(案)

会 長 | 公益活動支援補助金について。申請に至らなかったが相談件数は増えたということで、もう少し頑張れば次につながりそうなところはあったのか。

事務局 | 全然対象にならないものばかりではなかった。申請時期のタイミング、もう少し受付期間が長ければ申請まで持っていけたのかもしれないような団体もあり、事前相談を受けながら補助制度のひとつの課題なのかもしれないと感じた。民間が実施している補助制度や県の社会貢献基金を利用する等、同種の補助制度を活用する団体もあった。

委 員 | 申請は3~4月でとても多忙な時期。気持ちはあっても申請できる内容までまとめるのが難しい時期。とは言っても、新年度の初めと考えると、この時期になるとも思う。申請の時期はどのように考えたらいいいものか。

事務局 | 制度的に交付決定後でないとお金を使えないため、できるだけ早く交付決定したいという思いで早めに設定している。

会 長 | 早期に実施したい団体のニーズには合うかもしれないが、どこの補助金も同じ申請時期では意味がないと思う。

事務局 | 現行の制度では委員からの審査により採択を決定するという流れなので、その都度申請受付は難しい。例えば、春や秋の2時期に分けて募集も考えられるが、秋は公益活動団体協働提案負担金の審査もあり、2つ審査が重なると委員の負担が増大してしまう。

副会長 | 補助金を受けた団体の活動内容や経過をホームページ等で紹介しているのか。それとも、活動終了後に紹介しているのか。映像でわかれば、これから申し込む団体等の参考になるのではないかなと思う。

事務局 | 交付決定をしたら、その団体をホームページで公表している。活動後には実績をホームページに掲載している。

副会長 | 次年度の補助金申請の際に参考になると思うが、年度途中で「このような活動があって、次にこのような活動をする」、あるいは事前に「このような活動の準備をしている」というような広報はしていないのか。

事務局 | これまでは募集期間より前に事前周知のようなことはしていない。補助金は新年度の予算で実施するものであり、市の制度的に可能かどうか。来年度予算でやると言ってから、予算が成立しないと迷惑がかかってしまう。財政と協議が必要。

副会長 | 了解を得てからになるが、参加者が映像に映るというのは楽しいと思う。年度途中に1回位でいいが、そういうものがあると参加者の刺激にもなるし、見た人が次のイベントに参加しようというきっかけづくりにもなるのかなと思う。私の団体では年3回位講座を行っているが、1回終わるごとに映像で公開している。それを見て新たに参加する人が出てくるし、お金がかかることだが、市民の参加と同時に参加者自身の充実度にもつながり、いろいろな活動に参加するきっかけになっていくと思う。口コミで広がるような設計にできればいいかなと思う。

事務局 | 活動報告については、団体自身がInstagram等で報告しているところもある。活動ごとに内容を掲載するとよりよいということを情報提供したい。

副会長 | 動画でなくても静止画でも構わない。団体から撮ってもらい、アップしてもいいのではないかなと思う。

副会長 | 企業との連携施策の検討、取り組み案について。なぜ補助金があるのに企

業でお金を出さなくてはいけないのかと思う企業もあるかもしれないが、自分たちはボランティアに貢献する企業だということをPRしたいということであれば、意味があると思う。ボランティア活動を通じて、企業をいかにしてPRしていけるのかということが大事なのかなと。企業としては、こういったものにも支援しているということが伝わっていけば、企業イメージの向上につながっていくと思う。お金というよりも、こういった形で市民に知らせていくという役割を持ってお願いすれば、協力してくれる企業もあると思う。小さい企業ではなかなか経済的に難しいかもしれないが、先ほど事務局から説明があったように商工会議所や青年会議所、月1回位の評議委員会に行って説明をして希望者を募れば、ひとつひとつまわる必要はない。会員制度にすれば、定期的に寄付してもらえる。企業として、どのようなボランティア活動に寄付したいのか、何でもいいという企業もあれば、こういった活動にという企業もあると思う。そういう視点でお願いするのもいいかなと思う。

会 長 | 私はお金だけではないのかなと思っている。企業が学生の活動を手伝いたい、学生もこういう企業にご支援いただき一緒に活動したいというような、ボランティア団体と企業がちょうどこういうことができるしやりたいなという、お互いの受け皿みたいなものがあるといいなと思う。

副会長 | 地域共創センターは企業と連携してボランティア活動を行っているか。

会 長 | Liga 食品ロス削減チーム等、お話をいただいた。一緒にやりたい団体を指名していただくこともある。

5 その他

特になし

6 閉会